

It started aiming to attempt cultivating friendship in November, 1963

京
人倶楽部



倶楽部は、2004年に設立された
る首都圏における校友会領域団体
業界でご活躍の企業経営者や管理
業や政界など様々なフィールドの
おられます。会員相互の交流を密に
図るとともに、在校生や若手卒業生
を入れており、業界や世代の垣根を越
のベースとなることで、母校を盛り

当倶楽部の活動のベースは主に

KANSAI UNIVERSITY

2023年
60周年
を記念して!

関西大学 経済人クラブ

Message

コロナで世の中の様相が激変する中、人と人の繋がりがとり
一層重要に感じます。大企業においても副業も認められるな
ど、社会環境は大きく変化している中、独立を目指す人のサ
ポートだけでなく、企業内で仕事を発展させるうえでの人
作りと自己研鑽の場を提供したいと思っています。校友の絆
を大切に、先輩経営者と若手校友との交流の機会を作りより
クラブの充実を図ります。2022年は大学昇格100周年
を迎えと共に、来年2023年には関西大学経済人クラブ
創設60周年を迎えます。「学の実化」という開大理念の中
心子たちの集まりとして、長き伝統を守りつつ、女性や若手
会員を増やしていきながら、新しい世
の中を創り出すワクワク楽しい経済人
の研鑽の場として更なる発展を目指
してまいります。

皆さまのご入会を
お待ちしております



関西大学
大学昇格100周年記念イベント
当日の動画はこちらから



KEIZAIJIN CLUB

News

- 第234回例会
- 第235回例会
- 第236回特別例会
- 第237回例会
- 関西大学経済人クラブ大学昇格100周年記念講演会
- 秋のゴルフコンペ
- 春のゴルフコンペ
- 若手会主催
「KANSAI entrepreneurs」
- 第3回全国招待大学対抗男女混合駅伝

KANSAI UNIVERSITY
関西大学経済人クラブ
<https://ku-keizaijinclub.jp/>

第234回例会 2022年5月9日(月)

やらの、しゃーない!

— 1型糖尿病と不屈の左腕 —

元阪神タイガース投手、阪神球団コミュニティ・アンバサダー
岩田稔氏 (平成18年経済学部卒)

今回の講演は校友であり (平成18年経済学部卒)、元プロ野球投手で野球評論家の岩田稔氏に「やらの、しゃーない! — 1型糖尿病と不屈の左腕 —」と題し講演をいただいた。岩田氏は、大阪桐蔭高校での在学中から1型糖尿病を抱えながらも関西大学野球部を経て2006年に阪神タイガースに入団、3年目には先発ローテーションに定着し10勝を挙げ、2009年にはWBC日本代表として世界一を経験するなど16年間に渡って活躍。2021年限りでの現役引退し、解説・評論活動と並行しながら現在阪神球団のコミュニティ・アンバサダーを務める。また現役時代から携わっている1型糖尿病の啓蒙活動や社会貢献活動を行うなど野球界の内外で活躍されている。

「1型糖尿病患者の星になりたい」と公言。 誇りある16年間のプロ野球人生を全うする。

小学校1年生から野球を始めプロ野球選手になることを夢見て大阪桐蔭高校に進学する。当初はその高いレベルに驚愕するも必死に食らいつき練習を続けるが2年生の冬に1型糖尿病を発症し診断後即時の入院生活となる。一生注射を打ち続けなければならない生活や野球ができなくなることで絶望するが主治医より教えられた同じ1型糖尿病を抱えながらも日本プロ野球及びアメリカメジャーリーグベースボールでも活躍したビル・ガリクソンの存在や大阪桐蔭高校野球部監督西谷氏の毎日の見舞いを受け、現状を受け入れて前に進むことを決意する。

夏の大会に向け練習にも励んだが、以前より内定していた社会人チームから病気を理由に内定を取消されてしまう。これにより反骨精神が芽生え大学進学を希望し西谷監督の母校である関西大学に進学する。当時の関西大学野球部監督高岡氏の病気を理解した上での対応や愛ある厳しい指導、本人の反骨精神、他大学の有力選手との切磋琢磨、他者とは違った人一倍の努力 (監督談) により見事成長を果たし阪神タイガースへ希望枠で入団する。

入団発表会見時に「1型糖尿病患者の星になりたい」と公言し、ガリクソンのお陰で野球を諦めずに済んだ自分のように同じ思いをしている人たちの力になりたいと敢えて公言することで様々な辛く苦しいことも乗り越え、優勝こそできなかったが誇りある16年間のプロ野球人生を全うする。

大学の4年間があったからこそ、その後のプロ野球人生と今がある。

この様に話される岩田氏はまとめとして、「やらな、しゃーない！」という今置かれている状況を覆すプラス思考のこの言葉を大事に歩んできたこと、そしてその思いで過ごした大学の4年間があったからこそその後のプロ野球人生と今があると思っていること、そして現役引退した自分のこれからの役目は社会に出ても何でもできることを示し「いつまでも希望の星であり続ける」ことだと思っており、社会人として2回目のルーキーだが自身の今後の活動と姿勢を見てほしいと話された。

最後に講演上達のため場数を踏む機会を頂きたい旨で締めくくった岩田氏に対し谷副会長から謝辞を伝え講演会が終了した。5万人の大観衆の前でのプレーやマスコミ対応など数々の経験のある岩田氏が緊張しているのが不思議な感もあったが誠実さと実直な人柄が伝わる爽やかさの残る講演会であった。

続いて岩田氏や来賓の方々を交え新人・ゲスト紹介を行うなど親しく懇親会が行われた。新型コロナウイルス感染症の感染が続く中ではあったが感染防止対策を行いながら久々に総会・例会・懇親会が盛大に行われ浅田副会長の挨拶で閉会となった。

(平成2年商学部卒 副代表幹事 杉江 秀樹)



岩田 稔 氏【プロフィール】



大阪府守口市出身。大阪桐蔭高校への在学中から1型糖尿病を抱えながらも、関西大学野球部を経て、2006年から阪神タイガースで16年間にわたってプレー。3年目の2008年には先発ローテーションに定着し、10勝を挙げる。巧みな投球術で打者を翻弄し、2009年にはWBC日本代表として世界一を経験。2021年限りで現役引退。2022年から解説・評論活動と並行しながら阪神球団の「コミュニティ・アンバサダー」を務める。

第235回例会 2022年9月12日(月)

夢と冒険 モンベル7つのミッション



辰野勇氏 (株式会社モンベル代表取締役会長)

「一冊の本に出会い
運命が変わった。」

関西大学経済人クラブ第235回例会が2022年9月12日大阪新阪急ホテルにて開催された。第1部は学歌斉唱の後、永尾会長の挨拶。10月9.10日千里山キャンパスで開催される『関西大学フェスティバル in 関西』について、経済人クラブブースについての説明があった。全長21mにも及ぶ超大型ブースには東京、中部、東北、各経済人クラブブースが設けられる事や、若手ブース、過去のあゆみブースなど内容盛り沢山で出店。企画構成は若手メンバー中心に作成され、当日への期待が高まる発表であった。

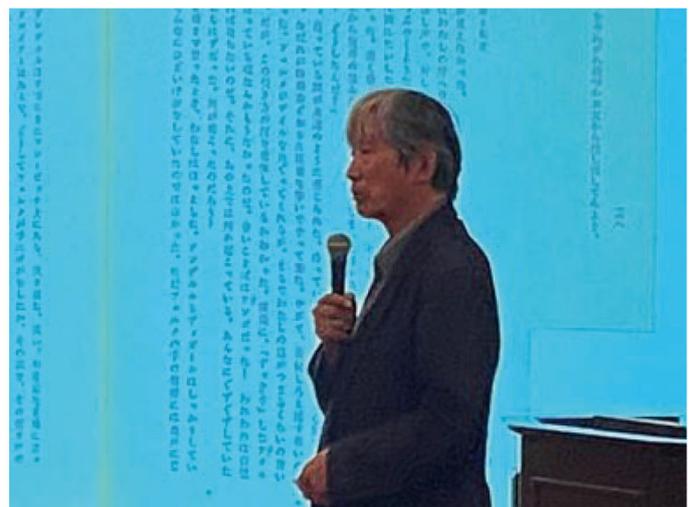
また、学の実化を具体化する新たな試み、関西大学山岡塾創設の説明も行われた。

将来の社会をリードする『行動力』と『革新力』を備えた経済人、起業家を育成することを目的とし、早速、本選考を通過した学生達も ZOOM 参加、現地出席し本例会への期待の高さが伺われた。

危険な場所へ挑戦する事で、 知らないうちに商売に必要な感性が磨かれた。

その後、辰野勇様(株式会社モンベル代表取締役会長)より『夢と冒険 モンベル7つのミッション』というテーマで講演を頂いた。『一冊の本に出会い運命が変わった。』

日本に130店舗、世界に4店舗展開する世界のアウトドアメーカーモンベルはここから始まる。辰野氏は幼少のころから病弱でありそれがコンプレックスであった。ところが国語の教科書に書いてあった登山の本を読み大きな夢を描くことになる。いつか、アイガーに登りたい!その夢に向かい登山に明け暮れる日々。冬山、激流、暴滝、普通の人なら決して飛び込まないであろう場所に辰野氏の情熱は注がれていく。死を意識することはつまり生を意識すること。危険な場所へ挑戦する事で、知らないうちに商売に必要な感性が磨かれていることに本人はその時まで気づいて



なかった。商売に必要な集中力、持続力、判断力、決断力。これはすべて自然が教えてくれたと辰野氏は振り返る。会社を経営する上で必要な決断が7回あった。それを知りたければ著書『モンベル7つの決断』を読んでもくださいとユーモアを交えての講話に場も和んだ。資本金0円起業、直営店出店、価格リストラなど一部を紹介頂いたがますます本を読みたくなるばかり。講話の最後にモンベルは世界一幸せな会社にする。全員が同じベクトルの方向を向いている会社にする。これが最大の目標であると語られた。その為にはリーダーが今やっている事が何になるのかビジョンを伝える事が大事とおっしゃるその言葉に私が学ぶべき姿勢が見えた気がした。講師への御礼として仁井ひろみ副会長より感謝の言葉が述べられた。

小休憩の間に辰野様と名刺交換するメンバーの列が伸び、講演の反響の大きさが垣間見られた。第2部の懇親会では芝井敬司理事長、前田裕学長より来賓の挨拶があり池内啓三前理事長の乾杯音頭により懇親会がスタート。新会員2名の挨拶、ゲスト7名の挨拶があり終始和やかなムードにて開催された。最後に本間副会長より挨拶があり第235回例会は無事閉会となった。

(平成19年工学部卒 中野 聡)



仁井副会長より感謝の言葉が述べられた



永尾会長より経済人クラブブースについての説明



終始和やかなムードで懇親会が開催された

辰野 勇 氏【プロフィール】

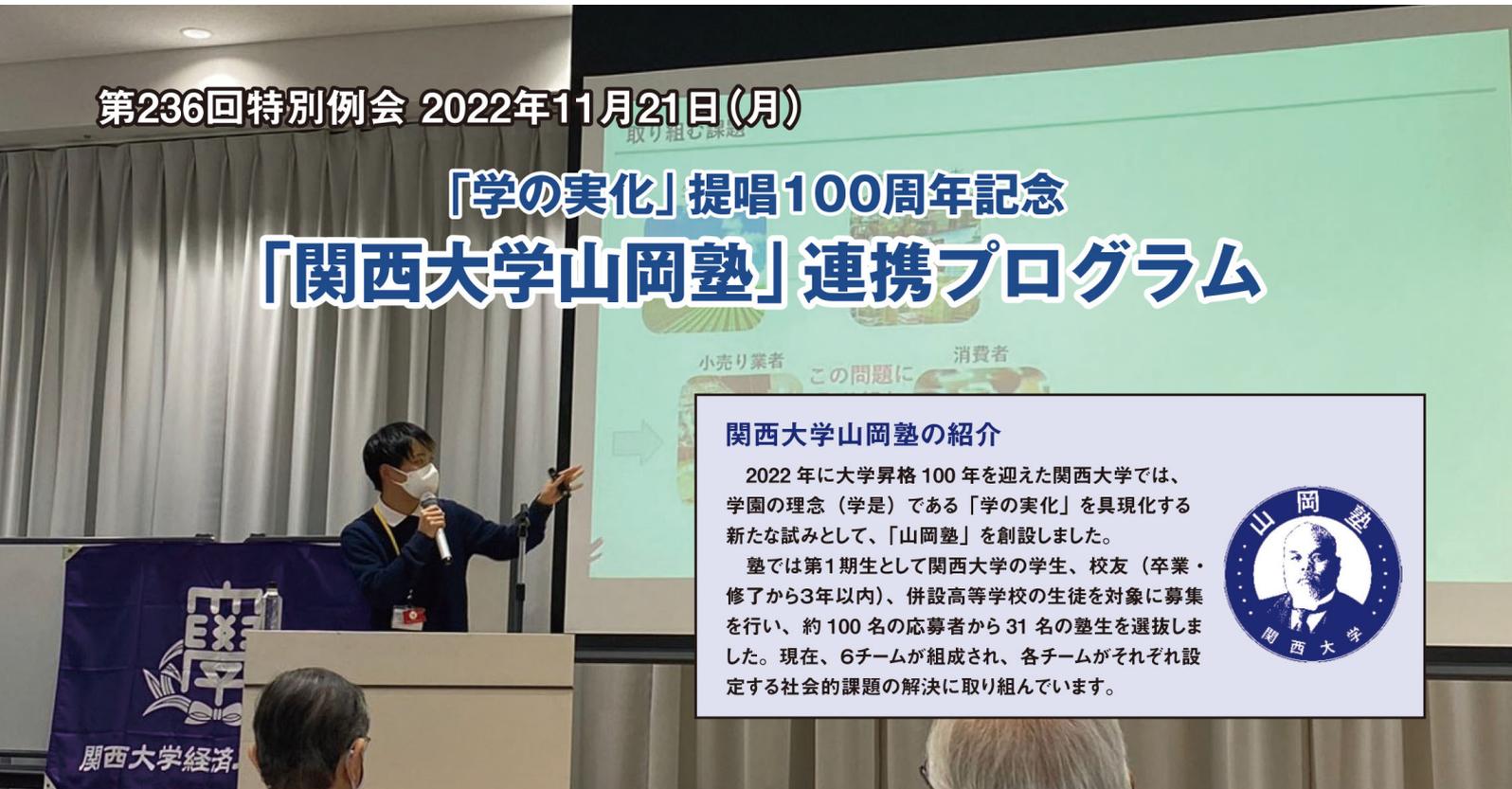
1947年大阪府堺市に生まれる。少年時代、ハインリッヒ・ハーラーのアイガー北壁登攀記「白い蜘蛛」に感銘を受け、以来山一筋の青春を過ごす。同時に将来登山に関連したビジネスを興す夢を抱く。1969年には、アイガー北壁日本人第二登を果たすなど、名実ともに日本のトップクライマーとなり、1970年には日本初のクライミングスクールを開校する。そして、1975年の28歳の誕生日に登山用品メーカー、株式会社モンベルを設立し、少年時代からの夢を実現する。またこの頃から、カヌーやカヤックにも熱中し、第3回関西ワイルドウォーター大会で優勝する。以降、黒部川源流部から河口までをカヤックで初下降、ネパール、北米グランドキャニオン、ユーコン、中米コスタリカなど世界中の川に足跡を残す。

一方、1991年、日本で初めての身障者カヌー大会「パラマウント・チャレンジカヌー」をスタートさせるなど、社会活動にも力を注いできた。近年では、京都大学特任教授やびわこ成蹊スポーツ大学客員教授、天理大学客員教授など、野外教育の分野においても活動する。2011年に発生した東日本大震災では、阪神淡路大震災以来の「アウトドア義援隊」を組織し、アウトドアでの経験をいかした災害支援活動を自ら被災地で陣頭指揮する。

趣味は、登山、クライミング、カヤック、テレマークスキー、横笛演奏、絵画、陶芸、茶道。

第236回特別例会 2022年11月21日(月)

「学の実化」提唱100周年記念 「関西大学山岡塾」連携プログラム



関西大学山岡塾の紹介

2022年に大学昇格100年を迎えた関西大学では、学園の理念（学是）である「学の実化」を具現化する新たな試みとして、「山岡塾」を創設しました。

塾では第1期生として関西大学の学生、校友（卒業・修了から3年以内）、併設高等学校の生徒を対象に募集を行い、約100名の応募者から31名の塾生を選抜しました。現在、6チームが組成され、各チームがそれぞれ設定する社会的課題の解決に取り組んでいます。



関西大学経済人クラブ第236回特別例会が2022年11月21日関西大学梅田キャンパスにて開催された。今回は「関西大学山岡塾」連携プログラムということを受け、来賓6名、会員43名、ゲスト4名に加えて、山岡塾関係者である学生と大学関係者31名も参加し、総勢約90名が参加する盛会となった。

第1部では学歌斉唱の後、永尾俊一会長の挨拶があり、山岡塾生への歓迎の言葉、「関西大学フェスティバル in 関西」への協力に対する謝辞が述べられた。謝辞の中では、「関西大学フェスティバル in 関西」の東北経済人クラブブースにおいて、社会安全学部の現役生がアンケート収集をするなど、校友会・経済人クラブ・現役生のネットワークの拡がりが見られたことに触れ、今回の特別例会でネットワークがさらに拡大することを期待する旨の発言があった。

山岡塾が目指す“学の実化”

続いて、学校法人関西大学理事長で、クラブ名誉会長の芝井敬司様より「山岡塾が目指す“学の実化”」と題し、主に山岡塾創設の背景についてご講演いただいた。講演では、関西大学中興の祖である山岡順太郎の提唱した「学の実化」を構成する4本柱の内、特に「学理と実際の調和」について、これは実学を重視する概念ではなく、学問によって得られた成果と実社会の調和を重視する考えであり、大学と社会は相互に受け入れ合いバランスを取ることが重要であると述べられた。さらに、岸田内閣総理大臣の演説の一節に触れ、国策として「スタートアップ投資」に重点が置かれている



ことから、学園としてもスタートアップ育成事業に重点的に取り組んでいく考えであることが語られた。

次に、山岡塾活動報告として、山岡塾コーディネーターである宮田将様より、学生の活動の様子が述べられた後、山岡塾生ら全6チームから、フードロスやフェアトレードなど、さまざまな社会課題を解決するための構想プランと、それらの検討状況に関するプレゼンがあった。

山岡塾生の中から、メディアを賑わすスタートアップが生まれることを期待

また、第1部の最後には、パナソニックホールディングス(株)元代表取締役社長・現特別顧問であり、山岡塾の塾長でもある大坪文雄様より、学生の活動報告を受けた総括が述べられた。学生らに対しては、スタートアップであるからには様々なアドバイスには耳を傾けつつ、鵜呑みにすることなく、自分の考えを持って貫徹することが大事であるとの激励の言葉があった。また、過去の例を見ても、VUCAの時代においては、新たな企業が生まれるものであり、山岡塾生の中から、メディアを賑わすスタートアップが生まれることを期待するとの発言があり、第1部は終了した。

河内ワイン 90年の歴史と和飲（ワイン）セミナー

続いて、第2部「経済人のためのワインセミナー」では、当クラブ会員でもある（株）河内ワイン代表取締役の金銅重行様より「河内ワイン 90年の歴史と和飲（ワイン）セミナー」と題し、同社の歴史と経営に関する講演及び河内ワインのテイasting会が行われた。

講演では、ぶどう農家であった同社がワインづくりを始める契機となった社会環境の変化や当時の経営者の決断について詳細な説明があった。また、ワインの製造工程や、余ったワインをブランデー・梅酒に加工するまでのさまざまな工夫、それらを取り巻く地域住民との関わりなどが、ユーモアあふれる軽妙な語り口で語られた。講演の後は、会員と学生が活発に意見交換しながら河内ワインのテイastingが行われた他、新入会員やゲスト参加者の紹介が行われた。

最後に、校友会会長の田中義信様からご挨拶いただき、特別例会の盛会と経済人クラブの発展を喜ぶ言葉が述べられ、芋縄隆史副会長の挨拶で閉会となった。

(平成 21 年院文化研究学科卒 木下 悠介)



山岡塾現役学生塾生によるチーム活動報告プレゼンが行なわれた

～関西EC企業のグローバル展開～

アズワン株式会社

代表取締役社長 井内卓嗣

2023年2月6日

第237回例会 2023年2月6日(月)

コロナ禍の研究医療の成果加速に貢献する ～関西EC企業のグローバル展開～

アズワン株式会社代表取締役社長
井内卓嗣氏 (平成3年商学部卒)

関西大学経済人クラブ第237回例会が2023年2月6日に開催されました。今回は大阪新阪急ホテルの会場とZoomを利用したWEB形式のハイブリット形式で開催され、来賓7名、会員53名、ゲスト8名の方にご出席いただき、東北経済人クラブからもリモートでご参加いただきました。楠隆夫副代表幹事の司会にて学歌斉唱から始まり、永尾俊一会長より開会のご挨拶をいただきました。ご挨拶の中で、1963年に創業された経済人クラブが60周年を迎えるため、第240回例会に還暦記念の例会が実施される事が周知され、参加が呼びかけられました。その後、会員の三原様より、今回ご講演頂くアズワン株式会社代表取締役社長の井内卓嗣様をご紹介頂き、「コロナ禍の研究医療の成果加速に貢献する～関西EC企業のグローバル展開～」というテーマでご講演がスタートしました。

アズワン株式会社

「研究」「医療・介護用品」「産業」業界全体の業務効率化へ貢献

アズワン株式会社は、元々は大学や研究所向けに実験器具のカタログ通販を行ってきた創業90年の卸売業者ですが、現在は「研究」「医療・介護用品」「産業」の事業におけるプラットフォーム型の企業として業界トップシェアを持たれており、研究に必要なものほぼ全てをワンストップで揃える事ができるサービスを提供されています。研究器具の販売だけでなく、研究者の困りごとである時間がない・お金がない・もったいないといった課題を解消するべく、レンタルや中古販売・研究の受託もプラットフォーム内で提供されています。また、ITやロボット等の先進テクノロジーを活用した業務改革にも積極的に取り組まれており、過去の問い合わせを全てシステムに登録する事により、研究者からの専門的な質問にオペレーターが即答できるような体制を整えられました。中でも、最新の価格や在庫情報を含む業界のあらゆる商品情報を保有するデータベースを作成する事により、業界全体の業務効率化へ貢献されています。



井内社長の人生について

一番大事な人に勧めたくなるような「良い会社」を目標に改革に取り組む

井内様は大学卒業後、商社マンであるお父様の影響を受け、スケールの大きい仕事をする事を目的に鉄鋼商社にご就職されました。入社後は、鉄筋を販売する部署に配属されましたが、取次のタイミングで大きく理財が変わってしまうため納期どおりの納品が難しく、現場の方とのトラブルが絶えませんでした。また、勤務後に営業の飲み会に参加し、店を出てから会社で雑魚寝をするような生活からうつ病になってしまい、20代を廃人のように過ごされたそうです。そんな中、ご結婚を機に義理のお父様の家業を継ぐため、当時の株式会社井内盛栄堂へご転職されました。最初は小さい会社を手伝うつもりで入社されたそうですが、成長が加速する会社を見て不安も感じられたとのこと。40歳の時に社長のバトンが渡されたそうですが、井内様と同じく養子として社長を継がれた先代様の「自分のカラーを出し急ぐな。」というお言葉から、じわじわと漢方薬的に会社を変えていく事を決意されました。20代の時に井内様が経験されたようなつらい思いを若い人にさせたくないという思いから、一番大事な人に勧めたくなるような「良い会社」を目標に改革に取り組みされました。数ある取り組みの中で、社内の情報をオープンにすると共に、退屈な業務をRPA化させる事でクリエイティブにつながる真面目な雑談会「本音で語る会」を社内で浸透させたことは、データベース構築の成功にも繋げられたそうです。

最後に本間敏司副会長から謝辞を頂き、今回ご参加頂きました井内様へ、経済人クラブからの謝礼をお送りさせて頂き、閉会となりました。

(平成29年外国語学部卒 経済人クラブ事務局 関大パンセ 向井 琢磨)



本間副会長より感謝の言葉が述べられた



乾杯の音頭により懇親会が始まる

井内 卓嗣 氏【プロフィール】



1991年(平成3年)に関西大学商学部を卒業後、日鐵商事株式会社(現日鉄物産株式会社)に入社。1994年にアズワン株式会社に入社し、2002年に国際部長、2005年に取締役に就任、2008年専務取締役、2009年4月に代表取締役社長に就任。事業の発展と拡大に寄与されている。

アズワン株式会社は、東証プライム市場に上場し大阪市西区江戸堀に本社を置く。研究用機器、化学機器、消耗品から工場MRO、看護・介護用品のすべてを扱い、2023年に創業90周年を迎える商社で、12期連続増収を達成し、連結売上高1000億円を目指し成長を続けている。

関西大学経済人クラブ 大学昇格100周年記念講演会

田中義昭氏（関西大学校友会副会長）



関西大学経済人クラブ大学昇格100周年記念講演会が、2022年8月5日に大阪市中央公会堂大会議室で開催されました。

今回は校友のゲストを含む31名の方々にお集まりいただきました。

関西大学校友会副会長の田中義昭様より「私が見た大津事件（湖南事件）」というテーマでご講演を頂きました。

大津事件（湖南事件）について

1891年、訪日していたロシア帝国皇太子・ニコライを警備にあたった警察官である津田三蔵が突然切りつけ負傷させた暗殺未遂事件である大津事件（湖南事件）について大変詳細にまた分かりやすくご説明いただきました。

当時強国であったロシアの皇太子を小国の日本が襲撃したとして、日本の政府は報復を恐れ、司法に対し大逆罪によって死刑を適用するよう働きかけた。しかしながら現在の最高裁判所長官にあたる小島惟謙（関西大学の前身である関西法律学校創立者の一人）は司法の独立を守り政府の圧力に反発し、無期懲役の判決を下したということでした。

この事件について、実際に田中義昭様が訪れられた土地の写真や資料などからご自身の考えなどを交えながら熱く語られました。

また、様々な関係する人物についても詳細にお話しいただき、相互の関係性や時代背景なども理解することが出来、当時のことを頭に思い浮かべ想像しながらとても興味深く楽しく聞くことが出来ました。



中之島 LOVE Central にて懇親会を開催

第一部の講演会終了後、中之島ラブセントラルバーベキューテラスにて懇親会を開催しました。



ご来賓の前田裕学長にご挨拶いただき、続いて池内啓三前理事長の乾杯のご発声をいただいてスタートいたしました。途中、参加者の皆様に一言ずつ頂戴し、終始和やかな雰囲気で大変盛り上がりしました。

暑気払いとして、屋外でのバーベキューでしたが川沿いということもあり気候も穏やかで風もあったため、最後まで気持ちよく楽しむことが出来ました。

（平9年工学部卒 副代表幹事 楠 隆夫）

（関大パンセ・向井 06-6368-1974）

第3回 全国招待大学対抗男女混合駅伝

関西大学の法被を着用し、ノボリ旗を立てて応援

長居公園周回コースで開催された第3回全国招待大学対抗男女混合駅伝に、関西大学陸友会、阿倍野支部、東北経済人クラブと協力して、現地にて応援を実施しました。関西大学の法被を着用し、コースの各地点でノボリ旗を立てて応援をしました。見事、準優勝という結果で応えていただき、選手や監督から応援が力になったと御礼の言葉もいただきました。



(平成6年法学部卒 代表幹事 村上 康司)



経済人クラブ ゴルフコンペ

秋のゴルフコンペ



初参加7名を含む20代～80代の幅広い年齢層の会員に参加いただき、ゴルフを通じて親睦を深めることができました。

優勝は初参加の三井聡一郎氏、2位は金銅重行氏、3位は大倉平氏となりました。

(平成6年法学部卒 代表幹事 村上 康司)

春のゴルフコンペ



当日はあいにくの天候でしたが、自然美に満ちたコースは手入れが行き届いており、アンジュレーションの効いたグリーン、絶妙な位置に設置されたハザード等、戦略性のあるコースでプレーを楽しみました。優勝は金銅重行氏、2位は村上康司氏、3位は富永昌雄氏となりました。

(平成6年法学部卒 代表幹事 村上 康司)

YOUNG CLUB

関西大学経済人クラブ若手会

経済人クラブ若手会は、次世代を背負って立つ若手メンバー同士が気軽に交流を図ることができるように設立された会です。交流会・研修会だけでなく、趣味や遊びを通じて、若手世代の交流と親睦、自己啓発を図り、母校関西大学出身者による人脈の形成を目的としています。

過去 15 回オンラインで開催してまいりましたが、今年度より満を持してリアルでのイベントを開始させていただきます。

40 歳未満の関西大学出身の OB・OG の方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。

< GUEST SPEAKER >



2022年4月20日
八澤 龍之介 氏 (H23法学部卒)



2022年5月25日
岡田 光莉 氏 (R2 社会学部メディア専攻卒)



2022年6月21日
山口 拓志 氏 (H22法学部卒)



2022年7月20日
松永 昂大 氏 (R2 社会学部メディア専攻卒)



2022年8月23日
中野 聡 氏 (H19工学部機械システム科卒)



2022年9月21日
太田 有哉 氏 (H30経済学部卒)



2022年10月26日
吉田 貴美子 氏 (H23文学部卒)



2022年11月25日
濱崎 航平 氏 (R2 社会学部卒)



2022年12月19日
辻 慧 氏 (H19商学部卒)



2023年1月16日
樋口 大喜 氏 (H26法学部卒)



2023年2月22日
大石 純平 氏 (H18経済学部卒)

YOU'RE INVITED TO
KANDAI
entrepreneurs